

古代イタリアの陶器

イタリア国立先史民族学博物館“ルイジ・ピゴリーニ”(ピゴリーニ博物館と略)との交換寄贈品を中心とした、エトルリア地域から出土した陶器類のコレクション。エトルリアとは、紀元前8世紀から紀元前1世紀ごろイタリア半島中部の西側で栄えた都市国家群。12の主要都市がゆるやかにむすびつき、祭祀や共同の軍事などによって統一性を保っていました。やがて紀元前3世紀になると、かつての支配都市国家であるローマに敗れはじめ、紀元前1世紀にはローマに同化し消滅しました。エトルリア文化の基盤となったヴィッラノーヴァ文化の骨壺、エトルリア人があみだした黒光りする陶器(ブッケロ)、ギリシャのコリント式陶器の影響を受けた彩文陶器、アッティカ陶器の衰退によってアプリア(プッリャ)地方で生産された赤絵(赤像)式陶器や黒釉彩文陶器、ローマで作られた赤色陶器や白色陶器、そしてエトルリア人の死生観を示す奉納品や神殿の瓦類などを展覧します。